

教育研究業績概要

氏名 櫻井美和子 ()				
研究分野		所属学会等の名称		
母性看護学 健康教育				
担当授業科目名				
教育上の能力に関する事項				
事項	年	概要		
1 教育の実践例、教育に関する評価等		特になし		
2 作成した教科書、教材、指導書等		特になし		
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・講師等				
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項				
事項	年	概要		
1 資格、免許、特許、受賞等	1979年 5月1日 1980年 5月12日 1987年 11月29日 1988年 3月31日 2017年 3月15日	看護婦（師）免許証 第357971 助産婦（師）免許証 第78611 産業カウンセラー2級（日本産業カウンセラー協会） カウンセラー上級（三重カウンセリング） 医療リンパドレナージセラピスト（日本医療リンパドレナージ協会）		
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等	2008年～現在に至る	津市内の小学生2年生・5年生対象「いのちの授業」 7～8回/年		
研究業績等に関する事項				
著書名、報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
(著書) ・ ・ ・				
(報告書等) ・ ・ ・				
学術論文 学会発表等の題名		発表者名	発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等	
(学術論文) 1. 分娩前準備教育（ラマーズ法）を導入した実際と効果		櫻井美和子 他	分娩前準備教育（ラマーズ法）を導入するにあたり、受講者15名と対照群（非受講者）15名を各時期の指導効果のチェックリストと分娩後質問調査と褥婦の感想文を評価した。その結果、教育群は、対照群と比較し指導効果あり産婦の満足度も高かった。 P109～113 三重	

		第 14 回日本看護学会集録 大津
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2. 精神分裂病である妊産婦の看護-産褥期の精神障害悪化の予防的働きかけ ・ ・ 	<p>櫻井美和子 岡本美智子 一柳きみ子</p>	<p>産褥期の精神障害者事例を通して悪化の予防的働きかけを報告。</p> <p>1 妊娠継続を決めた時点で家族は具体的な計画を話し合っておく。2 誰がキーパーソンかそれぞれの役割を誰が担うか家族の協力体制を整える。3 産後、身体的・心理的負担にならない程度に母児接触を早期に行う 4 精神科医・産科医・助産師間の連携を行い、患者との信頼関係を早期に築いておく。</p> <p>P95-98 第 18 回日本看護学会集録 高知</p>
3. 分娩時における産婦と助産婦の満足感と看護評価の差異	<p>國分真佐代、安田理恵、 櫻井美和子</p>	<p>正常分娩をした 62 名と助産婦 12 名に自記式質問用紙を用いて分娩時における産婦と助産婦の満足感と看護評価を調査し差異を検討した。その結果、両者の満足感の差は大きく、援助に対して産婦は満足感が高く、助産婦は低く自己評価が厳しかった。また、両者の一致は処置的な場面に多く、不一致は教育・心理的な場面に多かった。</p> <p>第 22 巻 P. 62～P. 65 第 22 回日本看護学会(母性看護)集録集</p>
<p>(学会発表等)</p> <p>1. 妊産婦の心理的変動 (第 1 報)</p>	<p>櫻井美和子 一柳きみこ 伊東雅純 比良多道晃 山口隆久</p>	<p>妊婦の不安内容を明らかにして、適切な看護を考えるために妊産婦 114 名に半構成面接と心理検査 (STAI, CMI) を実施した。その結果、妊娠の受け止めは初期に 80% が肯定しているが、後期には 60～70% に低下した。計画妊娠の場合は妊娠に有意に肯定的感情を示し、産科的既往歴や合併症がある場合には否定的感情が多く、STAI の不安尺度も高かった。STAI では、未産婦の状態不安は中期よりも後期が有意に高く、経産婦は時間経過とともに高くなり、初期と後期に有意差があった。また状態不安と特性不安には相関がみられた。このような心理状態を考慮した看護が重要と考えられた。</p> <p>母性衛生 27 巻 3 号 P503-504 第 28 回日本母性衛生学会・学術集会 名古屋</p>

<p>2. 妊産婦の心理的变化 (第2報) -褥婦の不安および情動変化を及ぼす要因の検討-</p>	<p>櫻井美和子 一柳きみこ 伊東雅純 村田和平 杉山陽一 比良多道晃 山口隆久 他3名</p>	<p>第1報と同目的にて、産褥早期(0～2日)、退院前(4～6日)、産後1か月時期の褥婦114名に半構成面接と心理検査(STAI)を実施した。 その結果、産後のSTAIは初・経産婦で異なり、児への愛情は半数の褥婦は妊娠経過とともに上昇するが、残りは様々な様相であった。褥婦の不安は赤ちゃん、身体、家族のことであり、家族を挙げるのは経産婦と有職者であった。40～60%の褥婦は産後1週間は身体的苦痛や集中力低下、不眠、涙もろさ、抑うつ気分等を経験し、妊娠中からの個別的な援助や指導が重要であると考えられた。 母性衛生28巻4号P627-628 第29回日本母性衛生学会・学術集会 大阪</p>
<p>3. Survey on Consciousness and Activities of Midwives in Mie Prefecture</p>	<p>櫻井美和子 川村徳子 石川恵子 渡辺光子 他2名(三重県看護協会 助産師職能委員)</p>	<p>三重県内の助産師の勤務意識と業務内容を調査して、県内助産師の活動および拡大を考えることを目的として、140人の施設勤務助産師と37人の地域助産師(県内助産師の84%にあたる)に実態調査を行った。その結果、助産師の能力を高める上で重要な要素には「助産師の職業」としての雇用条件、社会的地位、助産師の良好な自己イメージの確立などが影響していた。 P153-157 第22回国際助産婦連盟学術大会 神戸</p>
<p>(その他) 1. 年代別・職位別にみた看護師の職務満足に関する要因分析</p>	<p>西井恵子 藤本美智代 久世信子 辻幸代 谷口絹代 櫻井美和子)</p>	<p>看護師の年代、職位、役割という属性別の職務満足度を明らかにすることを目的に、同意が得られた361名に職務満足度の質問票(Stamp、日本語版尾崎)を用いて因子分析を行った。その結果、20・50代の第一因子は看護師間の人間関係であり、役割ありの者に肯定的反応が多かった。このため、人間関係の改善が重要であり、個人の能力に応じた役割を果たすことによる成長を期待することが重要であると考えられた。 第23回日本看護科学学会 津市</p>

<p>2. 病棟におけるインシデントからみた身体抑制の実態調査- 身体抑制を減らすための取り組み</p>	<p>西川朋宏 深谷みゆき 櫻井美和子 他2名</p>	<p>病棟での年間インシデント112件中に最多であった転倒・転落インシデント29件について、発生状況・内容・実施していた安全対策を分析することを目的とした。認知・行動上問題がなく身体抑制なしが12件で、徘徊コールのみで身体抑制なしが8件（夜間5件・日勤3件）、身体抑制ありでベット4点柵が9件であった。この結果から、夜間を中心に身体抑制だけでなく常に転倒・転落を予防する重要性が明らかになった。 第32回三重県看護研究会集録</p>
--	---------------------------------	--